



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：アフガニスタン・パキスタン3ヶ国首脳会議 (5月24-26日付現地報道)

5月24日、第2回イラン・アフガニスタン・パキスタン3ヶ国首脳会談がテヘランのサード・バード宮殿において開催された。現地報道は以下の通り。

1. 3ヶ国首脳会談 (5月24-25日付「イラン」紙他報道)

(1) アフマディネジャード大統領発言

- a. イラン・パキスタン・アフガニスタン3ヶ国の関係は良好であるが、我々は現在、非常に困難な地域問題に直面している。以前から存在している問題としては、経済、開発及び教育問題が挙げられるが、現在ではこれに加えて過激主義、軍国主義及び外国勢力による駐留・干渉などの問題が存在している。
- b. 地域問題の解決には、地域諸国間の友好関係発展及び共同協力の更なる拡大を図る必要がある。今回の3ヶ国会談の目的は、治安及び地域の文化に裏打ちされた人々の生活向上や安定的発展にある。
- c. パキスタン及びアフガニスタンの両政府は、国際問題において決定的かつ多大な影響力を有している。この観点から（イランを含めた）3ヶ国首脳の決定や措置は、3ヶ国のみならず広く西アジア地域における平和・安定に基づく繁栄を牽引するものであるといえる。3ヶ国間協力により、我々は地域問題の根幹に係る共通問題に対する認識を明らかにすると共に、互いのポテンシャルを活用して問題解決のためのアプローチに至ることが出来るのである。
- d. パキスタン政府は次回会合をイスラマバードで開催する用意があることを宣言しており、イランはこの件に関するパキスタンのイニシアチブを歓迎する。

(2) ザルダリ・パキスタン大統領発言

- a. 会合開催により、我々は3ヶ国の枠組みにおいて自らの見解を世界に発信する事ができるのであり、このことは非常に重要な意義を有する。
- b. アフガニスタンにおいて存在する問題は我々にとって非常に大きな問題であり、(3ヶ国の) 国境付近における問題ももはや放置しておく事はできない。将来世代に良い生活をもたらすためにも、我々は協力して相互のポテンシャルを活用すべきである。

(3) カルザイ・アフガニスタン大統領発言

- a. アフガニスタンは過去30年間戦禍の渦中にいたのであり、(現在抱えている) 問題の多くはソ連占領時から現在まで続いているものである。残念な事に地域という文脈においてもアフガニスタンの治安確保に向けた作業は実施されてこなかった。しかし、未だ遅くはなく、我々はあらゆる分野において治安確立及び地域における過激主義の一掃という作業で協力する事ができる。
- b. (人々に) 平穏な生活を保証するためには、3ヶ国における治安確保が先ず必要不可欠であり、我々はもっと早くこの会合を開催すべきであった。我々は治安、経済、貿易といった(国民の) 生活基盤において協力をすべきであるし、過激主義、戦争及び不和との闘いをも開始せねばならない。

(4) 3ヶ国共同文書(テヘラン宣言)の発出

3ヶ国会談において各国首脳は地域情勢の変革に関する「テヘラン宣言」と題する共同文書に署名した。この宣言は治安、政治及び経済といった分野における3ヶ国協力の拡大に言及したものの。

2. 麻生総理メッセージの発表 (24-25日付「エエテマード」紙他報道)

(1) 3ヶ国会談に当たって日本国総理大臣のメッセージが発出され、モッタキー外相により読み上げられた。このメッセージにおいては、アフガニスタン安定樹立に向けたイランの努力に対する感謝が表明された。

(2) 麻生総理はこのメッセージにおいて、地域における安定樹立にはイラン・パキスタン・アフガニスタンの3ヶ国が協力関係を発展させることが重要であると述べた。また、パキスタン支援国会合へのイランの参加に感謝を示すと共に、この点におけるイランの貢献が拡大する事を望むことが示された。さらに麻生総理からは、アフガニスタンに関する日・イラン協力の進捗を歓迎する意向が示された。

3. ハーメネイ最高指導者との会談（24日付外務省プレスリリース）

(1) ハーメネイ最高指導者発言

- a. 3ヶ国間の相互理解の促進を支持する。こうした相互理解は、3ヶ国の指導者により誠実さ及び努力を通じてもたらされるものであり、(じきに) その結果は現れる事であろう。
- b. 過激主義者は問題を地域諸国及び政府にもたらすのみならず、それ以外の他者をも脅迫しているのである。こうした今日の問題は、資金と政策を伴って初めに過激主義を創設した者(米国)に降りかかっているのである。地域における基本的な問題の一つとして外国勢力による軍事介入が挙げられるのであり、この点で米国は地域諸国の国民に憎まれている。
- c. イランの隣国であるパキスタン・アフガニスタン2ヶ国の発展と治安確保はイランにとっても重要な問題であり、この点今回の3ヶ国会談は非常に重大な意義を有するものと言える。(3ヶ国の)協力分野は政治問題や治安問題に限定されるべきではなく、経済や開発の協力発展に向けた良好な素地が3ヶ国間には存在している。

(2) アフマディネジャード大統領発言

今回の3ヶ国会談において、各国の見解は非常に明確に提示され、実施されるべき方法が検討された。過激主義、軍事的干渉、麻薬やテロとの戦いは地域の基本的な問題であり、今回の会談を通じて、25項目からなる宣言が3ヶ国首脳により承認された。

4. アフマディネジャード大統領は、3ヶ国首脳会議の傍らにてカルザイ・アフガニスタン大統領、ザルダリ・パキスタン大統領とそれぞれ個別に会談を行った。

(1) アフマディネジャード大統領とカルザイ大統領との会談

アフマディネジャード大統領は、両国国民は古くから深い関係を有するとし、「様々な分野におけるイランとアフガニスタンの協力拡大に向け、既存のあらゆる基盤を活用しなければならぬ」と述べた。また、イランは近隣の友好国との関係拡大に何ら制約を有していないとし、「イラン・アフガニスタン・パキスタンの3ヶ国協力はそれぞれの国民の能力や才能の開花をもたらすと共に、地域の諸国民の利益となるだろう」と述べた。これに対してカルザイ大統領は、近隣諸国間の協力及び協調に向けたイランの努力を評価し、「今回の会合における友好且つ重要な合意事項は諸国民の進歩と生活向上のため迅速に実施されるべきである」と強調した。

(2) アフマディネジャード大統領とザルダリ大統領との会談

イランとパキスタン両国民の安全と発展に向け様々な分野における両国関係拡大の必要性を強調した。これに対しザルダリ大統領は、MOU、共同文書(テヘラン宣言)及びガスパイプラインに関する政府間枠組み宣言に署名がなされたことは両国民にとって嬉しい贈り物であると述べた。

5. 3ヶ国共同文書(テヘラン宣言)(5月26日付「テヘラン・タイムズ」掲載)

URL : http://www.tehrantimes.com/index_View.asp?code=195443

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799